

「委員会活動をパワーアップするための提案をしよう」

～話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する～

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、事前に準備したインタビューメモを活用して、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することについての指導事例を紹介します。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

B ① 話の展開に応じて質問し、必要な情報を得る
〈スーパーマーケットの店長へのインタビュー〉

B ①三 正答率 **50.6%** スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A エ

〔第5学年及び第6学年〕 B ウ

授業アイデア例

事前
(委員会活動)

各委員会が活動をより活性化させるための具体策を考え、全校に向け提案することを確認する

単元「委員会活動をパワーアップするための提案をしよう」(全6時間)

第一次①/6

委員会活動をもっと活発にするためにどうすればよいか話し合い、学習計画を立てる

ゴミを正しく分別してもらうためにはどうすればよいかな。



図書館をもっとたくさんの人に利用してもらうためにはどうしたらよいかな。

第二次②/6

インタビューの仕方を理解する

■ 本問を活用し、スーパーマーケットの店長にインタビューする場面を教師が演示することにより、よりよいインタビューの仕方に気付く。

インタビューモデルの例

店長役 よく売れている外国産のものは安いものも多いですよ。
質問役 安いものが多い**ということですが**、安い食料品が選ばれている**ということですか**。
店長役 高い外国産のものも売れています。
質問役 高い外国産のものも売れている**ということは**、安いというだけで売れているわけではない**ということですか**。
店長役 そうですね。品質重視の方も多いです。
質問役 「品質」とは、**どういうことですか**。
店長役 新鮮さや安全性など、その商品の質のことです。
質問役 **分かりました**。地産地消についても品質が関係する**のでしようか**。

「話し手の意図を捉えながら聞き、話し手の発言を受けて質問する」

- 相手の話の内容を確認した上で質問する
- 相手の話の内容を言い換えて質問する
- 相手の話の内容について、分からないところを質問する
- 相手の話の内容と関係付けて質問する

ポイント

第二次③/6

インタビューメモを作成する

■ インタビューの目的に応じて質問したいことを整理し、インタビューメモを作成する。

インタビューメモの例

(図書館の人) にインタビューしよう!

〈目的〉 K市立図書館では、**たくさんの人に利用してもらうためにどんな工夫をしているのか**を調べる。

【1 下調べで分かったこと】

- 「人形げきタイム」がある。
- 季節の本のコーナーがある。

【2 必ず質問したいこと】

見に来ている人は、どんな人が多いのか?
〈予想〉 小さい子どもが来ている。
〈答え〉 小さい子どもと家族

利用者の数は、どの季節が多いのか?
〈予想〉 夏休みの時期が多い。
〈答え〉 夏→自由研究 秋→読書の秋 どの季節も多い。

目的に照らし合わせて質問したいことを整理しておくことが大切です。

【3 追加の質問】

キーワードをメモすることで相手の意図をつかむことに役立ちます。

自分の予想と相手の答えを並べて記入することで、両者の違いを考えることができるようになります。

第二次④⑤/6

実際にインタビューに行き、取材内容を整理する

モデルを見て学んだインタビューの仕方を意識して、質問しましょう。



図書館の人の話を受けて、「小さいお子さんは家族と来る**ということですが**、小学生も来る**のですか**。」と質問したら、どんな人が来るのかよく分かったよ。



図書館の人の話を受けて、「**分かりました**。年間を通して季節のコーナーがあるので**でしょうか**。」と質問したら、その理由について、さらに詳しく話してくれたよ。

第三次⑥/6

取材内容を基に、自分たちにできそうなことを考えて、提案書を書く

事後
(委員会活動)

それぞれが書いた提案書を持ち寄って検討し、実際に活動に生かす内容を決定し、実践につなげていく

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 事前にインタビューメモを作成することで、自分が聞きたいことを明確にし、インタビュー全体に対する見通しをもちながら話の展開に沿って質問できるようにするなど、主体的に聞くことができるように指導することが大切です。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話し手の発言を受けて質問する姿などを具体的に示し、それを実際の生活場面において使う機会をもつことが大切です。そうした機会を通して、話し手と聞き手とが補完し合うことでより効果的な情報の伝達が実現するということが、児童が実感できるようにします。